

ふるさと高山で仲間と共に学び合い、地域や日本を支える人材を育成する

高山村幼保小中一貫教育

〔学びの里たかやま学園〕（施設分離型一貫教育）

高山幼稚園 高山小学校 高山中学校 高山村保育所



教育理念

- ◇目指す生きる姿 明るく かしこく たくましく
- ◇目指す人間像 心身ともにたくましい人間

高い知性

豊かな情操と徳性

創造力と変化への対応力

「人が輝き、伝統息づく星の里」高山村は、良好な農山村としての自然景観を守ると共に、県立ぐんま天文台、北毛青少年自然の家、群馬パース福祉専門学校、大理石村ロックハート城等の施設を有します。高山村の子どもたちは、この豊かな環境の中で、家族や地域の人々の愛情を受けながら成長しています。

本村では、一村一校園所という教育環境にあることを最大限に活用し、家庭や地域と連携しながら、12年間という期間の中で、一人一人の子どもにより良い成長を促すために、新たな一貫教育のシステムを構築します。

平成26年4月

高山村教育委員会

第1章 高山村幼保小中一貫教育の目指すもの

1 学びの里たかやま学園の一貫教育

高山村で実施する一貫教育は、高山幼稚園、高山小学校、高山中学校、高山村保育所を総称して「学びの里たかやま学園」とし、隣接している校舎や職員は別々ですが、学園長、副学園長を中心に一貫した保育と教育活動を展開していきます。

高山村で12年間を貫く「たかやま 学びと生活のやくそく」をもとに「学びの『目標・指導内容・指導方法』」を設定し、これらが教職員の共通理解と保護者・地域の協力のもとで実施される教育が、高山村が目指す一貫教育です。

2 幼保小中一貫教育のねらい

高山村では、高い知性、豊かな情操と徳性、優れた創造力を備え、社会の変化に的確に対応できる、心身ともにたくましい人間の育成を目指して、日々の教育活動を推進しています。

現在の生涯学習時代の中においても、やはり15歳までの保育・教育は、その後の長い人生における自立した学習者を育成するための根幹をなすということは言うまでもありません。子どもたちは、家庭内で愛情をたっぷり受け家族の一員としての自覚をもち、地域の中では様々な人々と接する中で社会性を高めていきます。そして、幼稚園や小・中学校で発達段階に応じた遊びや学び、そして体験活動の中で仲間と共に学び合い、将来社会で生きていくための基礎・基本を身に付けるとともに、生涯学び続けていく自立した学習者の基礎を培っていくこととなります。

高山村では、一村一校園所という教育環境にあることを最大限に活用し、「学びの里たかやま学園」として、12年間という期間の中で幼小中のより効果的な連携を図るとともに、家庭・地域と手を携え、「オールたかやま」の体制で一人ひとりの子どものより良い成長を促していきます。

教育目標

幼保小中学校の学びの連続性を重視した12年間の教育実践を通して「生き抜く力」を育む。

～ あかるく、かしこく、たくましく生きる力の育成 ～

願う子ども像

(1) 第1期（幼稚園）

安心できる環境の中で、五感を総動員して、愛着ある「もの、ひと、こと」に働きかけながら遊びに没頭する子ども

(2) 第2期（小学校1～4年）

安心感の中で友達と協同しながら丁寧に課題に取り組み、学ぶことの楽しさを追求している子ども

(3) 第3期（小学校5年～中学校1年）

友達と協同したり自己に問いかけたりしながら、様々な事象に対し主体的に働きかけ、抽象的に思考しながら課題を追求している子ども

(4) 第4期(中学校2・3年)

自らを律しつつ、友達と協同したり自己と対話したりしながら、課題を深く広く分析・追求している子ども

第2章 学びの里たかやま学園の基本方針と教育内容

1 一貫教育への基本的な考え方

- (1) 施設分離型及び本村の特徴(一村一校園所)を活かし、保護者や地域との協力・連携を図りながら取り組んでいきます。
- (2) 12年間を見通した柔軟且つ効果的な教育課程の編成と実施を目指します。
- (3) 3・6・3制を基盤としつつ、幼児児童生徒の心身の発達を踏まえ3-4-3-2年の区切りを取り入れ、発達段階を考慮した生活集団、学習集団を柔軟に編成します。

2 一貫教育の基本方針

(1) 学びの共同体に基礎を置く学校・園づくり

幼児児童生徒と教師が共に育つ学園(学校・園)にするために「学びの共同体に基礎を置く学校・園づくり」を進めます。これにより、個性が響き合う幼児児童生徒集団、職員集団の形成を図り、学校・園生活に学び合いへの気運を高めます。そのような学校・園の姿は以下の3点です。

『学びの共同体としての学校・園の姿』

- ・幼児児童生徒たちが学び育ち合う学校・園
- ・教師たちが教育の専門家として学び育ち合う学校・園
- ・保護者や村民が学校・園づくりに協力し参加して学び育ち合う学校・園

(2) 幼児児童生徒の成長と学びの連続性の保障

「学びの里たかやま学園」では、就学前の4歳児から中学校3年生まで12年間の育ちを見届けていきます。そこで、幼小中の教職員が「チームとして12年間で高山の子どもを育てる」という意識をもち、それぞれが果たすべき役割とチームワークを最大限に発揮し、幼児児童生徒の個に応じた質の高い・きめ細かな保育や学習指導を通じて、一人ひとりの幼児児童生徒の成長を保障していきます。

また、幼小中一貫教育として①共通の目標(目指す子ども像)、②12年間を貫く指導内容及び指導方法、③幼小及び小中学校の協働実践を共通するとともに、3-4-3-2年の各段階における役割や実践内容を明確にしていくことで、12年間を見通した一貫した指導で子どもたちの育ちと学びの適時性と連続性を保障し、幼児児童生徒一人ひとりの豊かな学びへとつなげる教育を行っていきます。

(3) 幼小及び小中の接続期プログラムによるスムーズな接続の実現

近年、子どもの育ちが大きく変化していると言われ、いわゆる「小1プロブレム」や「中

1 ギャップ」が大きな課題となっていますが、このことは本村においても例外ではありません。これらの課題解決に向け、幼稚園と小学校、小学校と中学校のそれぞれの円滑な接続を図り、子どもの健やかな育ちを保証していくことが求められています。

そのため、幼小の接続においては、アプローチ・スタートカリキュラム構想し、学びの芽生えを培う幼稚園教育から自覚的な学びを中心とする小学校教育へのスムーズな移行を図っていきます。また、小中の接続については、小学校高学年（第3期）において積極的な教科担任制を導入するとともに、小中一貫教育週間（6年生の中学校生活体験）や小中の児童生徒の積極的な交流（小中まなびミーティング、中学生による陸上教室等）を行っていきます。

（４）ことばの教育を基盤にした協同的な学びの推進と柔軟・効率的なカリキュラム編成

21世紀型学力は、「思考力を中核とし、それを支える基礎力と、使い方を方向づける実践力の三層構造」と言われています。その育成を目指し、本村一貫教育でこれまで行ってきたことばの教育（言語活動の充実、読書活動の推進、英語教育の充実）を基盤に、協同的な学びを推進していきます。

また同様に、各教科・領域の系統性や関連性から、幼小中12年間を見通した柔軟・効率的なカリキュラム編成を行い、基礎力・思考力・実践力をバランスよく育成していきます。

（５）「たかやま 学びと生活のやくそく」を基にした基本的な生活習慣や学習習慣の形成

基本的な生活習慣や学習習慣は、子どもたちにとって最も大切な習慣形成であり、将来の成長にとって不可欠なものです。高山村一貫教育推進委員会では平成25年度に「たかやま 学びと生活のやくそく」を作成し、幼保小中に子どものいる全家庭に配布しました。それを最大限活用し、年齢や発達段階を考慮し、学園と地域、家庭が連携して基本的な生活習慣や学習習慣の形成を図っていきます。

（６）教員の連携と協働、及び家庭・地域と一体となって取り組む一貫教育の推進

本学園における一貫教育の取組においては、自校園所内における職員間の協働はもちろんのこと、「学園として一人ひとりの子どもの成長を促していく」とした共通理解のもと、校種間連携も円滑に推進していきます。幼児児童生徒に関する情報交換はもちろんのこと、カリキュラム作成、教員の相互乗り入れによるチーム・ティーチングの実施、体験的な活動の共同実施等を積極的に行っていきます。

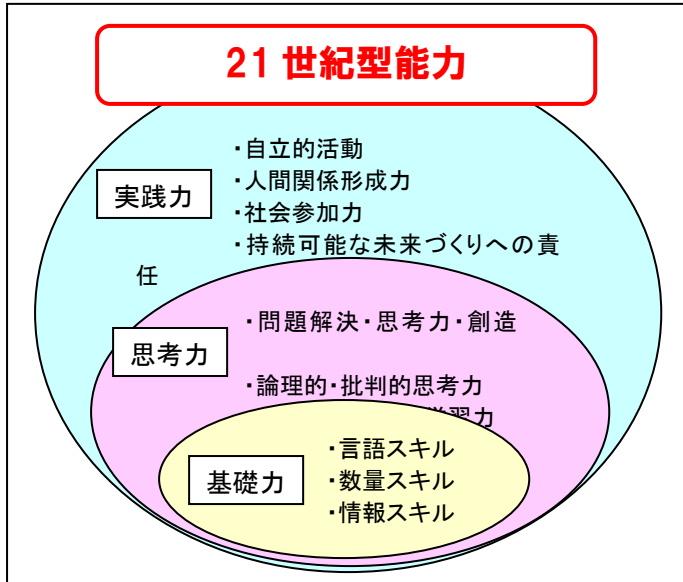
また、家庭・地域と一体になって一貫教育を推進していきます。本村では、これまでの各種団体が幼小中での教育活動に協力してくださっていますが、「学園地域支援センター」を活用し共通の人材バンク等を作成し、様々な場面で協力を依頼し、子どもたちに豊かな体験活動や学習の場を提供していきます。家庭との関わりについては、基本的な生活習慣や学習習慣づくりは、家庭の理解・協力なしには行うことはできません。「たかやま 学びと生活のやくそく」を媒介として、家庭と連携を更に密にし、目的を共有しての取組を進めていきます。

3 一貫教育で本村が目指す3つの力

◎本学園では、以下に示す「3つの力」を培っていくことで、これからの社会を「生き抜く力」を備えた自立した学習者を育てていきます。

(1) 本学園が12年間で培う「3つの力」

下の図は、「21世紀型能力」です。これは平成25年3月、国立教育政策研究所によって提案されたものです。そこでは、『21世紀型能力』は中核としての「思考力」、それを支える『基礎力』、その使い方を方向付ける『実践力』の三層構造で構成される。」と説明されています。この考え方は、



『実践力』の三層構造で構成される。」と説明されています。この考え方は、現行の学習指導要領の中での「生きる力」としての知・徳・体を構成する様々な資質・能力を汎用的能力として抽出し、再構成したものです。本学園では、3～15歳までの幼児児童生徒の発達段階も考慮し、この「21世紀型能力」を活用しつつ、以下に示す「3つの力」を培っていくこととしました。

【本学園で培う3つの力】

3つの力	力の説明(「21世紀型能力」との関連)	培う場
かかわる力	明確な根拠に基づき、周りの「もの・ひと・こと」とよりよくかかわっていく態度 (「実践力」)	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中での協同 ・教科学習等での学び合い ・総合、特別活動、道徳等
学ぶ力	各教科・領域等で身に付ける基礎・基本、また「学ぶ意欲」や「学び方」 (「思考力」「基礎力」)	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中での学び ・教科学習、総合 ・読書活動
生活する力	基本的な生活習慣、及びより良く生活していくようとする意欲や態度 (「実践力」の一部)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭・地域との連携 ・学校園での全教育活動 ・道徳、特別活動、総合等

この3つの力は、それぞれ密接にかかわっていますが、本学園が指導する3～15歳までの幼児児童生徒の発達段階を考えると、「生活する力」は他の2つの力を育成していくための基盤となるものです。そして、「生活する力」の上に「学ぶ力」と「かかわる力」が身に付いていくこととなりますが、それぞれの力は、どちらかが育った後に片方が育つといった一方向的なものではなく、それぞれが関与し相乗的に寄与する双方向的な関係にあると考えています。

(2) 「3つの力」を培うための「3つのつながり」

「学び」 のつながり ～ 幼小中が協力して「学ぶ力」を育てます

【授業・保育の改善を目指して】

- ・内容の系統性をした授業づくり（小・中）
～教科コンパス（羅針盤）で、その教科の学びで育てたい力を明らかにします
～「単元の核心」を明確にし、指導と評価に役立てます
- ・「学び合い」を中心とした協同的で質の高い授業づくり（小・中）
～聴き合う関係、教科の本質に迫る学び、ジャンプのある学びをつくります
- ・幼児が遊びに没頭するための見通しをもった支援（幼）
～期や週のねらいから遊びの中での学びを明確化します
～過去の子どもの姿を踏まえ、見通しをもった環境構成や環境の再構成を行います
- ・授業リフレクションや保育カンファレンスを取り入れた授業・保育改善（幼・小・中）
～授業者や保育者の授業（保育）デザインを基に、実際の見られた子どもの事実から子どもの学びを解釈し授業（保育）を振り返ります
- ・学びの連続性に着目した授業研究の実施
～学びの連続性に着目し、校種を超えての授業研究を行い、系統的な指導の在り方を探ります
- ・学力診断テストの分析と共通課題の把握
～学力診断テストの分析を行い共通課題を把握することで、指導計画の改善を図っていきます

【教科・領域を超えて】

- ・教科と総合的な学習の時間の関連づけ（小・中）
～教科と総合的な学習の時間の関連づけを図ることで、知識を活用したり、社会にかかわったりしていく姿勢を形成していきます
- ・遊びの中での体験的な学びを通しての豊かな感性や思考力・表現力の育成（幼）
～五感を総動員して「もの、ひと、こと」に働きかけていく体験的な学びを通して、豊かな感性や思考力・表現力を育成していきます。

【学習習慣の定着に向けて】

- ・「たかやま 学びと生活のやくそく」に基づく系統的・継続的实践（幼・小・中）
～「たかやま 学びと生活のやくそく」に基づいて、各発達段階に応じた家庭学習の指導を行い、習慣化を図ります。
- ・系統的な読書指導の実施（幼・小・中）
～

【学習ルールの統一】

- ・「聴くこと」の徹底（幼・小・中）
～教師や友達の話をしっかり聴けることを重点課題とし、幼小中を通じて発達段階に応じ

た指導を徹底していきます。

- ・「たかやま 学びと生活のやくそく」に基づく系統的・継続的实践（幼・小・中）
～「たかやま 学びと生活のやくそく」に基づいて、各発達段階に応じた学習のルールを徹底していきます。

「育ち」 のつながり ～ 幼小中が協力して「生活する力」を育てます

【生活習慣づくり】

- ・「たかやま 学びと生活のやくそく」に基づく系統的・継続的实践（幼・小・中）
～「たかやま 学びと生活のやくそく」に基づいて、各発達段階に応じた基本的な生活習慣を家庭と協力しながら図っていきます。

【あいさつの励行】

- ・小中合同あいさつ運動の実施（小・中）
～中学校生徒会と小学校児童会が連携して、小中合同あいさつ運動の企画運営の協議と実施をしていきます

【メディアとのかかわり】

- ・「ちょっぴり NO! テレビデー」の継続実施（幼・小・中）
～毎月0の付く日（10・20・30日）に、村内共通で「ちょっぴり NO! テレビデー」を実施し、メディアとのかかわり、家族との対話について考えていきます。
- ・メディアとのかかわりについての系統的指導（小・中）
～児童生徒の発達段階に応じて、インターネット等のメディアについての指導を系統的に行っていきます

【健康な生活づくり】

- ・「生活習慣チェックリスト」に基づく健康指導（幼・小・中）
～「生活習慣チェックリスト」の調査結果から本村幼児児童生徒の健康面の課題を把握し、それに基づいた継続的な指導を行います

「ひと」 のつながり ～ 幼小中と家庭、地域が協力して豊かな生活・学習環境をつくとともに、「かかわる力」の学びの場を提供します

【子ども同士の交流】

- ・各行事への相互に参加しての交流の拡大（幼・小・中）
～従来の運動会、マラソン大会等の他、今後、小学校の卒業式に中学校生徒会長が出席し、あいさつするなど、交流の拡大を模索していきます
- ・小中学校まなびミーティングの実施（小・中）
～夏季休業中に小学校で、中学生が小学校教員の補助的役割を担う学習サポーターとして参加し指導します
- ・中学生による陸上教室の実施（小・中）

～小学校での放課後陸上練習に中学校陸上部生徒が参加し、合同部活として実施します

【教職員の合同研修・交流】

・学園教職員会の実施（幼・小・中）

～従来の年度末に行っていた発表会の他、年度当初に研修会を行い、共通理解を図ります

・部会別研修による一貫教育の推進（幼・小・中）

～教職員は、必ず3部会7班編制の部会別研修のいずれかに所属し、その中で一貫教育に関わる実践にたずさわります

・軽スポーツや村めぐり等での交流（幼・小・中）

～夏季休業等を利用しての軽スポーツや村めぐりで互いに交流し親睦を図ります

【指導における相互交流】

・指導者の相互乗り入れ

～中学校教員による小学校でのTT授業を実施し、指導の効果を高めていきます（算数・数学、理科、外国語活動・英語、音楽、図工・美術、等）

・幼小・小中ジョイント期における互いの授業（保育）参観と情報交換（幼・小・中）

～校種間の滑らかな接続のため、幼小・小中ジョイント期において、各担任が互いに授業（保育）参観をしたり情報交換したりします

・小中一貫教育週間の実施（小・中）

～小学校6年生が中学校生活を体験する期間を設け、その中で小中学校教員がTTで指導を行います

【地域人材の活用】

・「共通人材バンク」の作成と活用（幼・小・中）

～学園支援センターのコーディネーターが幼小中の「共通人材バンク」を整備し、学校園行事や総合的な学習の時間等での人材活用につなげていきます

・「たかやま土曜スクール」の試行（小・中）

～土曜日に、地域人材の方にパソコン、英会話、調理、伝統文化等について指導してもらう「たかやま土曜スクール」を試行します

【PTAとの連携による取組】

・PTAと連携した「たかやま 学びと生活のやくそく」の実践（幼・小・中）

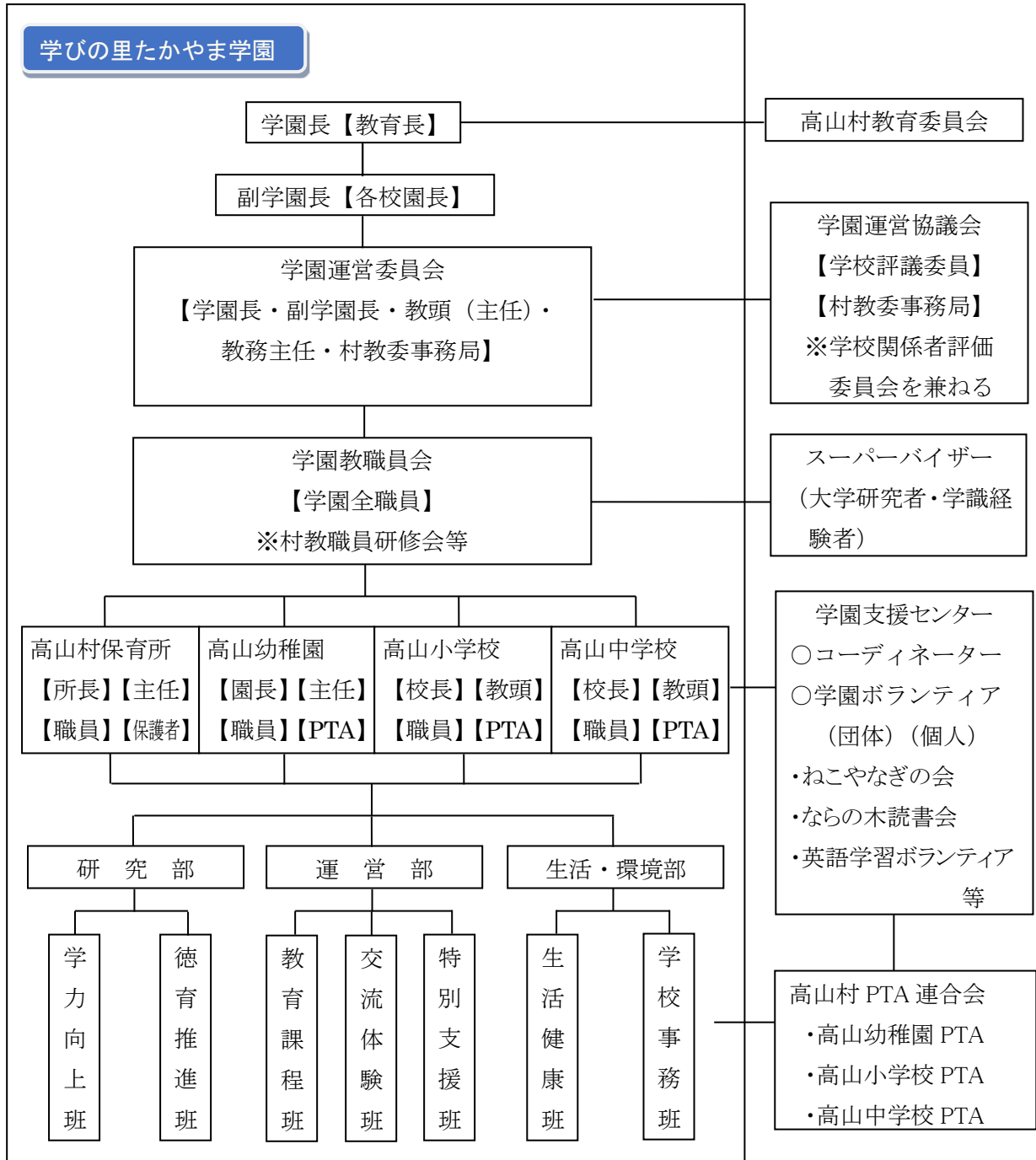
～幼小中各PTAに働きかけ、PTAとして「たかやま 学びと生活のやくそく」の内容の具体的取組を行っていきます

【地域で地域から学ぶ総合的な学習】

・「たかやま未来学」の取組（小・中）

～自らの課題に対し、地域で地域の「ひと・もの・こと」に働きかけながら情報を収集し、分析・考察しながら課題解決を図っていく「たかやま未来学」を系統的に構築していきます

第3章 学園の運営組織



【各班について】

- 学力向上班 … 学習指導の改善、授業研究、学力分析等
- 德育推進班 … 道德教育の充実、道德の時間の授業研究、生徒指導の充実
- 教育課程班 … アプローチ・スタートカリキュラム、生活・総合の改善、教育課程の見直し
- 交流体験班 … 幼児児童生徒の交流、教職員の交流、家庭・地域との連携
- 特別支援班 … 連続性のある特別支援教育の推進
- 生活健康班 … 「たかやま 学びと生活のやくそく」の実践
- 学校事務班 … 学校事務の共同実施、環境整備

【部・班の編制について】

- ・各部の部長は、副学園長（各校園の校園長）がつくこととします。
- ・各班の班長は、各校園所の教頭、主任、一貫教育担当が就くこととします。ただし、学校事務班は、共同実施責任者が就きます。
- ・各校園所の教職員は、必ずいずれかの班の所属し、班の研究実践活動に従事していきます。

第4章 一貫教育のシステム

1 本システムの考え方

- ◎「学びの連続性」と「学び合い（協同的な学び）」を基軸にして教育システムを構築します。
- ・就学前及び義務教育 12 年間で 3（芽生え）・4（前期）・3（中期）・2（まとめと発展）で構成します。
 - ・各期の学びの発達に着目して授業を構想し、12 年間で協同的な学びでつなぐ学習システムを開発していきます。
 - ・幼小及び小中の滑らかな接続を重視し、各ジョイント期を設定します。

	高山幼稚園			高山小学校						高山中学校		
	年少	年中	年長	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
区	第1期 まなびのめばえ			第2期 前期の学び			第3期 中期の学び			第4期 まとめと発展の学び		
分	遊びの中のまなび			教科・領域等による学び								
ね	人・物・自然などのかかわりを深める			学びの基礎・基本への気付きを深め、身に付ける			学びの活用への気付きを深め、主体的に学ぶ			学びの定着と発展への気付きを深め、広げて学ぶ		
協	◇安心できる環境の中で、愛着ある「もの」と一体になって浸りこむ体験的な学び ◇五感を総動員して「もの、ひと、こと」に働きかけていく体験的な学び ◆キーワード 「安心感」「遊び込み」「感性」			◇安心感の中で友達と協同しながら、丁寧に課題に取り組む、学びの楽しさを追求する学び ◇生活とのつながりを意識しながら「もの、ひと、こと」へ働きかけ、その意味を追求していく学び ◆キーワード 「丁寧さ」「生活とのつながり」			◇友達と協同したり、自己に問いかけたりしながら物事の根拠を探る学び ◇様々な事象に対し主体的に働きかけ、抽象的に思考しながら追求していく学び ◆キーワード 「自己内対話」「自尊心の高揚」			◇友達と協同したり自己と対話したりし、課題を深く広く分析・追究していく学び ◇自らの個性を意識しつつ、友達との協同の中で自らを律しつつより良く対応していく学ぶ ◆キーワード 「省察」「個性化」「自律的な学び」		
接	学級担任制			学級担任制			一部教科担任制			教科担任制		
続	幼小ジョイント期 (年長～小1)						小中ジョイント期 (小6～中1)					
『たかやま 学びと生活のやくそく』												

◎主な行事

5月23日(金) 15:30 学園教職員会(方針等説明、組織づくり、等)

8月上旬 教職員交流会・村めぐり

11月14日(金) 午後 研究部集会(高山中道徳指定発表会)

2月下旬 学園教職員会(発表会、講演会)

※27年度は幼小中各1授業・保育公開予定